



「会長あいさつ」

横須賀水交會会長 佃 剛



平成二十年の新春を迎え、横須賀水交會会員の皆様におかれましては、各分野で益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年防衛省は、情報漏洩問題、インド洋での給油支援活動の一時中断、守屋元防衛事務次官の倫理規定違反事案等々の大きな問題を抱えていたところ、また今年に入って二十年前の「なだしお事件」を思い出させるようなイージス艦「あたご」事件が発生してしまいました。海上

自衛隊は試練の時を迎えており、海上自衛隊のOBとして胸を痛めておりますが現役の皆さんが一刻も早くこの試練を克服し国民の信頼を再び取り戻していただきたいものと念願いたしております。

昨年は、横須賀市議会及び参議院議員選挙が行われましたが、横須賀水交會は、現役のできない分野で海上自衛隊を支援しようという方針の下で、有志が中心となり友好団体の有志と共に選挙の支援を行いました。会員の皆様の絶大な支援のおかげで大きな成果をあげることができましたものと思っております。本年も引き続き、横須賀水交會ならではの活動を積極的に推進してまいりたいと念じております。

昨年は「品格」と言う言葉が良く使われましたが今回品格のある元米海軍中佐「ジェームス・E・アワー」さんを是非紹介させていただき

発行 平成二十年三月十日
編集 横須賀水交會事務局

たいと思います。

先般守屋元次官の国会証言の中で「ジェームス・E・アワー」の名前が飛び出しました。彼は海上自衛隊幹部学校第二十五期指揮幕僚課程の学生としてともに学んだ同期生で、たまたまこの国会証言の少し前にアワー夫妻を迎えて修業三十年の同期生会を行ったばかりでしたので彼の名前を聞いて大変驚きました。無論きつぱりと会食を否定しておりました。

彼はウイスコンシン州にあるマーケット大学でNROTC(海軍予備士官教育課程)を卒業後少尉に任官して佐世保の掃海艇で船務長として勤務し、その後大尉の頃横須賀で駆逐艦の船務長として約一年半勤務しています。

そして少佐の頃国際関係論を専門とする大学院「フレッチャースクール」で米海軍の対日政策をテーマに勉強し論文を完成させました。その論文を見た後の駐日大使となるライシャワー教授に戦後の日本海

横須賀水交會主要行事予定

七月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員の参加をお願いします。

- 1 理事会
 - (1) 期日 三月二十二日(土)
 - (2) 場所 横監
- 2 練習艦隊入港歓迎行事
 - (1) 期日 四月一日(火)
 - (2) 場所 吉倉岸壁
- 3 二十年度総会・講演・懇親会
 - (1) 期日 四月十八日(金)
 - (2) 場所 よこすか平安閣
- 4 理事会
 - (1) 期日 五月十日(土)
 - (2) 場所 横監
- 5 馬門山墓地墓前祭
 - (1) 期日 五月十七日(土)
 - (2) 場所 市営馬門山墓地
- 6 海軍の碑記念行事
 - (1) 期日 五月二十七日(火)
 - (2) 場所 ヴェルニー公園
- 7 第十六回ゴルフ大会
 - (1) 期日 五月二十八日(水)
 - (2) 場所 ザ・鹿野山CC

軍の成立をテーマとした博士論文を書くように勧められ、論文を完成させました。その成果が「よみがえる日本海軍」として日本でも出版されました。博士課程を終わった後、海上自衛隊の幹部学校の学生として米海軍から派遣され我々の同期生となりました。

彼は、接する人が皆魅了される紳士で歴代海幕長からも信頼される一本筋の通った海軍士官のように見えました。そして、海自幹部学校での課程を修了した後駆逐艦「フライング・ハモンド」の艦長に配置されました。約一年間の艦長勤務を終わった後、カーター政権時代の国防総省に入り、極東の専門家として政策決定に当り、その後レーガン政権時代に制服を脱ぎ、政治任命の日本部長のポスト(待遇は少将)につき、日米同盟の強化に尽力しました。

現在はテネシー州ナッシュビルにあるヴァンダービルト大学の教授で日米研究センター所長も務めています。彼は極東の安全保障の専門家として日本でも有名ですがまた大変な親日家であり彼の日米同盟に果たした役割は計り知れないもの

があります。

ここで私が彼を尊敬する一番の要因に触れたいと思います。

彼と夫人のジュディさんとは子供に恵まれなかったため三人の養子を育てています。二十数年前、六本木で行われた同期会にアワーさんが長男の悌一郎君を抱いて現れました。まだ数ヶ月の赤ちゃんであったように思います。アワーさんの説明によると悌一郎君の名前は、尊敬する二人の元海幕長中村悌次海将と内田一臣海将から一字ずつ頂いたものだそうです。

阿川尚之著の「海の友情」によれば、湾岸戦争後、海上自衛隊の掃海艇がペルシャ湾に出動した時、悌一郎君は毎晩ベッドに入る前、「神様、ペルシャ湾に派遣された海上自衛隊の将兵をお守り下さい、どうか皆さんが無事日本に帰れますように、アーメン」とお祈りしたそうです。現在悌一郎君は音楽家としての道を歩み、メリーランド大学で、ヴァイオリン奏者の修士課程で学んでいるそうです。

長女ヘレンさんは韓国生まれで、

大学を卒業後JETプログラム(日本の外国青年招致事業)により昨年八月に来日し、現在群馬県の渋川市で英語指導助手として働いています。そして米国生まれの末っ子のジョン・エド君は大学を優秀な成績で卒業し、現在海兵隊の将校教育を受けているところです。

このようにアワー氏は、三人の養子を立派に育て上げて自らの政治信条でもある「日米韓の三カ国同盟」を自身の家庭の中で見事に結実し、それを誇りとしている一本筋の通った米国人です。

新渡戸稲造の「武士道」第三章「義」の中に武士道の光り輝く最高の支柱として「士の重んずることは節義なり。節義はたとえていえば人の体に骨がある」とし。骨がなければ首も正しく上にあることができなない。手も物を取ることができない。足も立つことができない。されば人は学問があっても才能があっても節義がなければ世に立つことができない。節義があれば骨不調法であつても士たるだけのことには事かかない」

学問があり才能があつても不祥

事を起こす官僚に比較してアワーさんには人生を一貫する骨があるように感じます。米国海軍士官の中に武士道を見る思いで、日米同盟にとつて彼はかけがいのない存在であるように思います。

「総監挨拶」

横須賀地方総監

海将 半田 謙次郎



横須賀水交會の皆様には、平素から横須賀在籍の海上自衛隊の部隊や機関が大変お世話になり、様々なご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

昨年は年頭に防衛省が発足し、明るい展望のもとに年が始まり

ましたが、その後不祥事が続発し、国民の防衛省・自衛隊に対する信頼を失墜させるような状況に陥りました。横須賀においては、年末に護衛艦「しらね」が火災を起こし、横須賀水交會の皆様にも多大のご心配、ご迷惑をお掛けしたものと存じます。

さて今年は、一月十一日に新テロ対策特措法が成立して海上自衛隊は直ちに準備に取りかかり、同月二十四日に横須賀からは護衛艦「むらさめ」がインド洋に向けて出港しました。出港

行事にはご家族はもとより、横須賀水交會はじめ多くの協力団体の皆様のご参加を得、さらに石破防衛大臣、町村内閣官房長官、安倍前首相その他多数の国会議員が参加され、「むらさめ」を見送っていただきました。海上自衛隊のインド洋での活動は、米国同時多発テロ以降の国際的なテロとの闘いに関して、わが国が実施しうる国際貢献の象徴的な活動として平成十三年十一月から昨年十月まで実施されたものの、諸般の事情で中断され

ました。「むらさめ」出港に際しての盛大な見送りは、六年間実施してきた海上自衛隊のインド洋での活動が、わが国の国益にかなう国際平和協力活動であること、そして活動再開に対する期待がいかに大きいか、を改めて強く印象づけるものでした。派遣隊員ならびにご家族にはご苦勞をかけることになりましたが、誇りを持って任務の完遂を期してもらいたいと思います。

もう一つ、横須賀在籍部隊の近況を紹介させていただきます。砕氷艦「しらせ」の帰国についてであります。「しらせ」は現在、最後の南極地域観測支援活動に従事しておりますが、すでに昭和基地沖を離れ帰途についており、四月上旬に帰国します。「しらせ」は昭和五十八年から四半世紀にわたり南極観測支援を実施してきましたが、帰国後いよいよ引退の日を迎えることとなります。二年後に就役する後継艦も「しらせ」と命名されることとが決定していますが、このことから現役「しらせ」の実績

と活躍に対する評価の高さが伺われます。少し早いですが、『「しらせ」よ、ご苦勞さん、ありがとう。』という気持ちでいっぱいです。

私は昨年十一月に着任したばかりで短い期間しか経っておりませんが、横須賀地方隊の特徴としては、広大な担当警備区にわが国の政経中枢が存在すること及びわが国の安全保障の柱である日米安保体制の基盤ともいえる在日米海軍の主要な基地が存在することがあげられます。業務遂行にあたっては、常にこの二点を意識しなければならぬと思います。また、私は着任に際し、勤務方針の一つに「緊張感と危機感の共有」を掲げました。その理由は、いかなる情勢、いかなる時代にあっても組織が健全に充実、発展するためには現状への妥協やマンネリを排除することが必須であり、そのためには組織構成員全員が適度の緊張感と危機感を常に保持し勤務することが必要であると思うからです。

海上自衛隊は三月末に新たな体制移行に伴う大きな部隊改編を予定しています。これは、防衛力の一層の効率化が求められる昨今の情勢下にあつて、海上自衛隊の伝統である「精強・即応」を追求した結果であるといえます。横須賀地区においても、在籍艦艇に大きな変更はありませんが、艦艇部隊の編成は特に大きく変わります。私ども横須賀在籍部隊の隊員一同、今後とも緊張感と危機感を失わずに職務に邁進する所存ですので、横須賀水交會の皆様には、倍旧のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

(追記)

本原稿投稿直後にイージス護衛艦「あたご」と漁船「清徳丸」が衝突し、漁船の乗員お二人が行方不明となりました。原因の如何を問わず、起こしてはならない事故であり、痛恨と遺憾の極みであります。

防衛諸団体合同新年賀詞交歓会を開催

防衛諸団体共催による恒例の新年賀詞交歓会が、一月十二日(土)の午後、平成町の横須賀商工会議所において開催された。この防衛諸団体合同新年賀詞交歓会は、在横須賀の防衛関連十団体が近傍の自衛隊部隊指揮官等を招待して新春の賀詞を交歓するとともに、陸・海・空自衛隊を激励し、併せて諸団体・会員相互の親睦を図ることを目的にして例年実施しているものである。

(防衛関連十団体・横須賀防衛協会、横須賀水交會、隊友会横須賀支部、海上自衛隊OB曹友会、財団法人三笠保存会、横須賀募集相談員の会、桜遊会、晨洋会、三浦半島地区父兄会、横須賀地区海交會)

国歌斉唱に引続き共催団体の長の紹介、共催団体を代表して小山横須賀防衛協会会長の挨拶、来賓を代表して半田横須賀地方総監及び蒲谷横須賀市長の祝辞、

来賓の紹介、祝電披露、乾杯、懇談の順に進められた。

自衛隊代表の半田総監の祝辞では、「昨年は不本意な年であったが、補給支援特措法に基づくインド洋での活動を出発点として再起の年としたい。」旨の決意が述べられた。

蒲谷横須賀市長の祝辞では、「昨年は自衛隊にとって良い年ではなかったので新しいスタートを切ってほしい。」旨の激励と「原子力空母母港化にむけて万全の備えをしたい、横須賀は国防の拠点、日米防衛の拠点であり、自衛隊・米軍、市民、市役所がトライアングルを組んでやっていきたい。」旨の決意が述べられた。

鏡開きは、横須賀水交會員の菊水酒造(新潟県新発田市)会長高澤氏から寄贈された菊水の四斗樽と元帥(鳥取県)の四斗樽が用意され、馬場防衛大学校副校長、香田自衛艦隊司令官、中村通信学校長、キューリック在日米海軍司令部副司令官兼参謀長夫妻、小山横須賀防衛協会



会長、主幹事の小田倉隊友会横須賀支部長により行われた。

火箱防衛大学校幹事の発声による乾杯の後、懇談は和やかに行われ、新年に相応しい交歓会となった。(上田理事記)

新法成立

護衛艦「むらさめ」出港見送り

一月二十四日(木)、先の国会で成立した新テロ特措法(補給支援特措法)に基づきインド洋方面における、各国に対する給



油活動を実施するため、護衛艦「むらさめ」(艦長 小澤豊2佐・乗員約百六十名)が横須賀を出港した。

第1護衛隊司令 佐伯精司1佐が派遣部隊指揮官となり、補給艦「おうみ」(定係港佐世保、二十五日出港)と洋上で合同し任務行動に赴く。

新法成立直後の出港であり、石破防衛大臣、町村内閣官房長官、安倍前総理大臣、佐藤正久参議院議員など多くの国会議員及び横須賀市長代理等が出港行事に参列され、従来に比し特に盛大な行事であった。

齋藤統合幕僚長、香田自衛艦隊司令官、半田横須賀地方総監他多くの指揮官、隊員及び家族とともに、佃 剛横須賀水交會会長以下多数の会員で見送った。水交會旗、自衛艦旗の小旗が振られ、心のこもった帽振れと汽笛が響く印象深い出港であった。「むらさめ」にとって任務行動は、イラク特措法による行動後、七年振りで新法では、はじめての行動であるが、何事も最初が肝心であり、ご健闘を祈るものである。約三カ月の中断をした後でもあり、各国の艦艇のゆるぎない信頼をさらに強めてもらいたい。



出港前、士官室において、水交會からの激励品を佃会長から贈呈し壮途を祝した。

国際テロの根絶と世界平和のため、また国益のため、はるかインド洋において、厳しい環境下、長期間に渡り、国民の目に届かない、いわば目立たない地味な行動に従事することに対し、深甚の敬意を払うものである。

司令、艦長はじめ乗組員の皆様、本当にご苦勞様です。任務達成を祈ります。

(本多理事長記)

(会員投稿)

五十八歳の大学院生(その二)

横須賀水交會会員 佐野 恭子

前回の掲載が

「大学院」とは

直接関係ないこと

ばかり書いて響感

を買ったかもしれない。

とても遠いところから話し始めた

のはこの掲載が「大学院で学ぶハウ

ツー」では無いからだ。「養老院よ



り大学院」(講談社、内館牧子著)

では無いが、大学院が養老院より面白いのかどうかの情報源となりたい。

一 鶏頭となるとも牛尾となるな
かれ

「反対である。」自分が鶏頭でトキを告げている集団など学ぶものがない。私は頭を下げて「この人から何もかも学び取りたい」と言う人間の傍に居たい。私には優れた、かけがえのない女友達が何人もいる。けれども、男から学ぶ時、思いがけないほど遠くにあるものが一気に得られる。信じられない切り口の、鮮やかなエネルギーがいきなりバケツで頭から浴びせられる。この衝撃は、コタエラレナイ。どの大学院の、どのゼミに入るかは、大切なことだ。私は出身の女子大は対象外とした。

二 夫婦で話し合う

「程度問題である。」夫婦は話し合うより、協力して実行する存在なのだ。私は大学院に行くことを夫と相談した。夫は「OK手伝うよ」と妻と夫が書面で取り交わしたとしても(こんな夫婦は少ないだろう

が)「実行させる力」が意味を持つ。

「执行力！」と言うことだ。

例一「リストで、買い出し」

ごぼうだけでは料理が出来ない。ニンジン、トリ肉、こんにゃく、油揚を一緒に買ってこそ、料理となることを伝える。買ってきたごぼうを見せてどういう料理ができるか教え、ささがきを作ってもらおう。味付けを見せ、出来上がりをおおいに褒める。「あなた、料理の筋いいわね」例二「洗濯物を干す」

「自分のは自分で干してねー。あれどうしたの?」「僕ね、床暖房だから床の上に広げておけばすぐ乾くの」?」

三 大学院で友達が出来る?

「難しい。」日大学院心理学専攻は小さい院生室にマスターまでは雑居、博士課程は小さい机をもらせる。院生室では二人に一台借りうけるコンピュータの使い方、統計ソフトの使い方、実験の方法・質問紙作成方法、参考文献をコンピュータから引き出す方法、プリンターの使用方法・修理方法、実験手伝いの依頼、授業のプリントの受け渡し、授業の分担など・・・や

ることが一杯。小さな部屋の中で、頭を下げて頼めそうな人、解りそうな人、自分のゼミの人に頼んで教えてもらう。相手はあくまで「厚意」で手伝い、教えてくれるだけだ。

最も困難なのが実験の被験者(協力者)募集で、指導教官に頼むのが普通だが、我が指導教官の頼めるところは同じゼミの博士課程の人が同じスライドで実験してしまっていた。私はポストドク(博士号を持っている研究者)の女性の為に、少しプライベートにかかる彼女のアンケートを引き受けてくれる友人たちを探し出し、その代わりとして彼女が講師をしている授業時間を貸してもらった。統計ソフトとコンピュータ操作は、修士二年の冬になつてから同期が修士論文の目鼻がついたところで男子にバイトで教えて貰えた。安いバイト代で、同じことを3度聞いても、熱心に教えてくれた。内館牧子氏も男子学生をバイトとして頼むことで解決したと書いていた。同期の女子は可愛く小首を傾げて、男子にいくらでも教えて貰っていた。私も二十二才だったらそうしただろう。きちんとバイト

で頼めたのは本当に心強く有難かつた。修士も二年目、研究となると授業料を支払っていても「お客様」でいては研究が出来ない。良いコミユニケーション、頼んだり頼まれたりが出来なくては一步も進まないのだ。これは困難な分、学ぶものも多い。

四 勉強と研究の違い

修士一年はただ楽しかった。授業の指定図書を読み、反対意見をぶつけて教授とクラスがワイワイ言うのを楽しんだ。教授は、自分の指定図書を「これは間違っている。なぜなら・・だろう?」と言われるのが大好きなのだ。クラス全体が大いに意見をぶつけていった。シーンと聞いているだけの授業の為に、電車を乗りついで登校するだけの貴重な体力はない。カリフォルニア州立大学バークレー校で同大学教授デビッドマツモト(感情心理学専攻教授・米国柔道オリンピックヘッドコーチを七年勤めた)と知り合い、東大の集中講義に呼んでくれ、新宿のホテルに泊まって講義を受けた。一晩で英文百枚の宿題が出た。アサイチで「賛成者は右に、反対者は左に

座れ。さて、君の意見は?」と英語で四日間討論形式だけの授業。マツモトの凄いとところは、とにかく「やる気」にさせる。はつきりした褒め方、励まし方。さすがは全米柔道ヘッドコーチ。一度は彼の恩師エクマンの理論を「これはこの点で間違っているね」と受講者たちの主張を認めてくれた。出席していた全員に衝撃が走った。自らチャンスを作って、他大学、他ゼミに出させて戴くのは、残り時間の短い私たちには貴重なこと。修士一年の勉強とは、ひたすら未知の、果てしない世界をグライダーで縦横に飛ぶようなスリルに満ちた時間だった。

修士二年。さて、研究・・実

は私は研究がどんなものか知らなかったのだ。先行研究の論文を五十編読み、仮説をたて、構成概念妥当性ばつちりの実験を組み、t検定、F検定、 χ^2 乗検定など、統計を潜り抜けて結果の検証・・とはどういうことかを。しかも実際の心理実験でもたつき、授業時間を貸してくれた他大学の準教授に面罵された。「佐野さん、今回の実験は論文には使えませんが、あなたがそれ程おた

おたしては情動の記憶に対する影響をみるどころではありませんよ。毅然としていなさい!毅然と!」指導教官は気の毒がったが、準備不足以外の何物でもなかった。実行する前に何度か院生室でパイロットテストを、拝み倒してでもしておくべきだったのだ。準教授が細かくメールで指摘して来てくれたので、ありがたくて、すぐお礼を打った。「実験をする」と言う大変なことを学んだ。すると質問紙の形式や内容もアラが見えて、院生室にいる熱心な下級生にまで時間泥棒をしては教えを乞うた。忙しいのに、誰もが親切にコンピュータとエクセルの使い方を教えてくれた。本からでは無く誰かに教えてもらったことばかりが生きて来た。

五 この二年を振り返って

一月十三日、横須賀水交會新年賀詞交歓会にでた。二十年來の古い友人たちに会った。その時、専業主婦で台所しか知らなかったなら、人生の苦勞・理不尽を潜り抜けて来た友人達の気持ちを理解できなかったな、と思う。海自と言う独特の組織、触雷したら全員が同じ運命とい

う連帯感の中で自分が心底笑っているのに気づいた。それは理性の座・腹内側前頭前野VMPFCで笑っているのではなく、fMRIの最新技術で躍り出た、第六感さえ担っているという扁桃体が喜んでいる。原始的な深いレベルの脳と全身で楽しんでいることを脳生理学を思い出しながらひたつた。

カード同好会開催百回記念大会

横須賀水交會カード同好会は、平成二十年二月で開催回数が百回となり、二月十九日に会員の内十二名が集まり逗子のKKR「松汀園」で記念大会を実施しました。

カード同好会

は、平成十六年の横須賀水交會紙第七号で当時の世話役齋藤理事が紹介しておられますが、その発足は平成十一年十月二十日で当時は横須賀桜美会でした。



平成十三年四月に桜美会は発展的に解消され現在の横須賀水交會になりましたが、カード同好会は継続され現在に至っています。

当日会員は、昼前に松汀園に集合軽い昼食の後、午後零時から夕方六時前まで約六時間に亘って熱戦を繰り広げました。競技は一回四十五分間の時間制とし、全七回の組み合わせで得点を集計、順位を決定しました。

結果は優勝岩岡氏得点五十八点、第二位福田氏得点二十点、第三位村上女史得点十八点でした。競技は和気藹々の内に始まり、最後は体力勝負の様相でした。

競技終了

後懇親会は、入浴を済ませて午後七時から開始、会員各人がそれぞれの近況並びに本日の反省など語りあい楽しいひとときを過ぎ親交を深めました。懇親会後も皆さんお元気で、囲碁を楽しむ人、更にお酒や様々な話題で盛



り上がる人たちもおられて意気軒昂でした。会員はおおいに百回記念大会を楽しみ翌朝食後、カード同好会の今後とも発展と会員の益々の技量向上を誓って解散しました。

(岩岡理事記)

〔カード同好会のPR〕

キャッチフレーズ

「カードをしながら お茶とお喋りを 楽しみませんか」

開催日：毎月第3水曜日午後1時から
場 所：横須賀総合福祉センター(汐入)
連絡先：満尾哲郎(046・843・0506)
岩岡 光(045・788・5313)



「卓球同好会のPR」

横須賀水交會卓球部は、現在、横須賀市北体育館(夏島町二番地)で毎月第一及び第三土曜日の九時から十二時まで、毎回約二十名の会員が参加し和気あいあいと汗を流しております。会員の中には、八十歳を超えて元気旺盛な鈴木豊氏や華麗な技量を維持されている伊藤隆行氏などもおられ、近頃になり盛況な活動を行っております。

卓球の運動は、身体的には過重とは思われませんが、瞬発力を育て、若さを維持する原動力と確信しています。

「是非 水交會の皆様に参加を 望み期待しております。」

水交會卓球部 佐々木誠一郎

(0468・88・6716)



SM・3 試験発射成功 大気圏外で標的破壊

イージス護衛艦「こんごう」は二月十八日早朝（日本時間）、ハワイ・カウアイ島沖でSM・3の発射試験を行い、模擬弾道ミサイルを大気圏外で迎撃する...



現地時間十七日午後、カウアイ島の米海軍太平洋ミサイル発射試験場から発射された一発の模擬弾道ミサイルに対し、同島から数百キロ離れた海域で待機していた「こんごう」は、探知、追尾を行い、発射から四分後にSM・3を発射し、その約三分後、高度百キロ以上の大気圏外で模擬弾道ミサイルの弾頭に命中、ミサイルを破壊した。

SM・3は弾道ミサイル防衛(BMD)のミッドコース段階を担う海上配備型迎撃ミサイルで、航空自衛隊のペトリオットPAC3システムと合わせ、わが国の多層防衛体制が整うことになる。
また、こんごう型の残る三隻も、

毎年整備され、二十二年度にはイージス艦四隻によるBMD体制が整う。

新世代潜水艦「そうりゅう」進水

平成十六年度計画で三菱重工・神戸造船所で建造中の潜水艦の命名・進水式が十二月五日に行われ、吉川海幕長が「そうりゅう」と命名した。



同艦は技術が開発したスターリング機関の発電機を装備した新型タイプであることから、従来の「〇〇しお」ではなく、潜水艦の命名基準を変更し、瑞祥動物の名前から「そうりゅう」が採用された。十八年度艦までは同型艦として「りゅう」シリーズで命名される模様である。

「そうりゅう」に装備されたスターリング機関による発電方式は、AIPとよばれ、シュノーケルによらないため、長時間の潜行能力に優れている。スターリング機関の搭載のために現有「おやしお」型と比べ、百五十トン大型化している。

また、艦尾の舵は従来の縦舵・横舵から「X舵」を採用し、水中での運動性の向上を図っている。

本年度就役艦艇

- 1 護衛艦「あしがら」(イージス艦) 三月十三日、三菱長崎
- 2 潜水艦「もちしお」 三月六日、川造神戸
- 3 掃海艇「ひらしま」(新型) 三月十一日、ユニバーサル京浜
- 4 多用途支援艦「げんかい」 二月二十日、ユニバーサル京浜

訃報

本年九月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

- 関口和則(幹講初) 九月十三日
- 亀井慎(海経36) 十一月四日
- 河村成(幹候2) 十二月五日
- 松本定(幹候3) 十二月十一日
- 磯崎満男(幹候10) 十二月二十七日
- 河上喜明(海兵75) 十二月二十七日
- 久馬武夫(海機38) 一月十三日

(初谷副会長記)

新(編)入会員(十月〜二月)

次の方々が横須賀水交会に新たに入会(編入)されました。(敬称略)

- 小川康延(有志) 宇都 睦雄(有志)
- 高塩 幸一(横教140) 伊藤 朝吉(有志)
- 志) 辰田 日出夫(横鎮S5) 中塚 久雄(幹候25) 鈴木 正幸(幹候25)
- 井出 剛一(幹候26) 占部 誠(有志)
- 志) 山田 健雄(遺族) 宮沢 典義(有志)

編集後記

海上自衛隊は三月末に大きな部隊改編を計画している。特に、護衛艦部隊は過去に例のない隊・群の編成となりそうだ。海上自衛隊としては今回の改編を将来に向けた変革のスタートと位置付けており、今後も、「戦える体制の再構築」にむけた改革を継続する。今後の海上自衛隊の発展に期待したい。(岩永理事記)

横須賀水交会ホームページ

<http://y-suikoukai.daa.jp/>